

第3次香美市振計画策定方針



令和 7 年 9 月
企画財政課

	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
基本構想	10年間									
基本計画	前期 5 年間					中期 5 年間				
実施計画	2 年間		2 年計画を毎年ローリング							

策定にあたっての考え方

▷ 市民参画

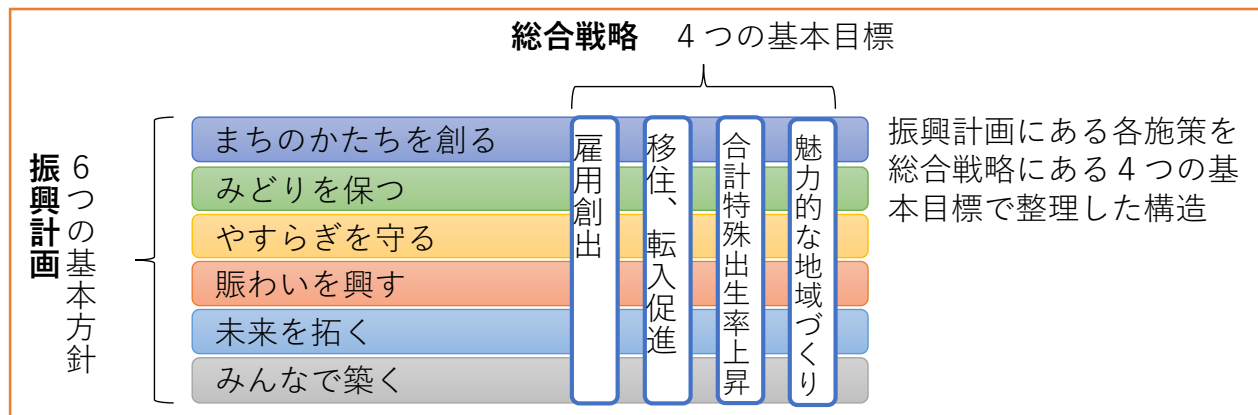
- 既存計画への意見照会、ターゲット別アンケート、地域団体等へのヒアリング、まちづくり委員会、パブリックコメントといった多様な市民参画の仕組みを利用して、まちづくりの課題の把握と共有、そして解決策を検討する。
- アンケートやパブリックコメントでは、オンラインでの手続きを可能にし、広報紙やホームページを通じて周知することで広く意見を収集していきます。

▷ 実効性の確保

- 振興計画に基づく施策を着実に推進し、成果を上げるため、目標設定のあり方や評価方法の見直しを検討します。また、総花的な計画ではなく、基本計画の計画期間である5年間に注力すべき事業を中心に、メリハリのある計画作成を目指します。
- 策定後の進捗管理や計画の変更（PDCAマネジメントサイクル）を見据え、目標の達成に影響のある要因を分析し、適切な重要行政評価指標（KPI）又は重要目標達成指数（KGI）を設定します。

▷ まち・ひと・しごと創生総合戦略との一体化

- 振興計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は別途策定してきました。両計画の計画期間は一致していないことから、制度改正等の事情により整合性が取りづらい状況にあった。また、進捗管理等を個別に行うこととなるため、非効率的な運用となっていた。そこで、振興計画と総合戦略を一体化させ、基本計画においてKPIを設定します。



▷ 個別計画との整合性

- 各分野における個別計画も総合戦略と同様に、振興計画にある各施策を各分野で整理した構造にあることから、個別計画を振興計画における実施計画として位置づけ、可能な範囲で計画期間を一致させ、振興計画において定めたKPI（又はKGI）を個別計画に目標として位置付けることで、市として一体感を持って施策を進めていくことを目指す。
- また、各計画担当部署で実施されていた進捗管理やアンケートなどを一括で実施することで、業務量の削減を目指す。

▷ 新たな視点

- 持続可能な開発目標（SDGs）、地域幸福度（ウェルビーイング）指標、デジタルトランスフォーメーション（DX）といった視点を盛り込む。

▷スケジュール